

# 新学習指導要領への 対応について

学校教育部教育支援課

# 1 学習指導要領改訂の背景

情報化やグローバル化など、急激な社会の変化の中、予測困難な時代を生きる子供たち

- ▶ AIが進化して、今の職業がなくなってしまうのでは？
- ▶ 今、学校で教えていることが、通用しなくなるのでは？



未来を切り拓く子供たちを育むために  
**「社会に開かれた教育課程」**の実現

## 2 社会に開かれた教育課程

- ☆ 「社会に開かれた教育課程」の理念
  - ・ 教育課程を介して社会と目標を共有
    - コミュニティ・スクールの意義
  - ・ 育成を目指す資質・能力を明確化
    - 「何ができるようになるか」の視点
  - ・ 目標の実現に向けた社会との連携
    - 地域社会との連携・協働

### 3 新しい学習指導要領の枠組

#### ①何ができるようになるか

→育成を目指す資質・能力の明確化

・ **生きて働く「知識・技能」の習得**

・ **未知の状況にも対応できる**

**「思考力、判断力、表現力等」の育成**

・ **学びを人生や社会に生かそうとする**

**「学びに向かう力、人間性」の涵養**

**(主体的に学習に取り組む態度)**

### 3 新しい学習指導要領の枠組

#### ②何を学ぶか

- ・各教科学習内容の改訂

※授業時数は 小3～6週 1時間増

※内容は大きく変更しない

→**道徳の教科化**

→**小学校「外国語」等の必修化**

→**プログラミング教育**

### 3 新しい学習指導要領の枠組

#### ③どのように学ぶか

→「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

- ・学校教育における質の高い学びの実現
- ・学習内容を深く理解する
- ・資質・能力を身に付ける
- ・生涯に渡って学び続けようとする

☆「教師主体の教え込み型授業」から  
「子供主体の学び合い型の授業」へ

### 3 新しい学習指導要領の枠組

④子供一人一人をどのように支援するか

- ・学級経営
- ・生徒指導
- ・キャリア教育
- ・個への支援
- ・インクルーシブ教育
- ・日本語支援
- ・不登校への配慮 等

⑤何が身に付いたのか

- ・指導と評価の一体化
- P D C Aサイクル

⑥そのために何が必要か

- ・カリキュラムマネジメントと連携・協働

## 4 変更に伴う課題と対応

①「社会に開かれた教育課程」の実現

→全校コミュニティ・スクールに指定

- ・学校の目標を地域と共有
- ・地域の理解を踏まえた学校運営

→学校応援団の活用

- ・257団体、のべ13,000人
- ・西堀小学校・・・文部科学大臣表彰

**【課題】 地域大学や企業等との持続可能な  
連携体制を構築すること**



## 4 変更に伴う課題と対応

②新たな学習内容への対応

→社会科副読本の改訂作業

→H29・30教育課程プロジェクト

- ・小・中学校の道徳科の指導計画の準備
- ・プログラミング教育の系統表作成及びスクラッチを基準とした活動計画を提示
- ・小学校外国語・外国語活動の必修化により、「教育課程特例校」を廃止

**【課題】プログラミング教育を充実させるための  
研修の充実や物的支援  
外国語教育充実のための指導体制の構築**

## 4 変更に伴う課題と対応

### ③学習指導に係る諸課題

→授業改善と学力向上

- ・ 学校訪問、研究発表の充実
- ・ 各種学力調査に基づいた授業改善

→評価の観点の変更

- ・ 4 観点から 3 観点到
- ・ 通知表や指導要録等の様式の変更

**【課題】 授業改善を踏まえた学力向上  
学習評価に係る研修の充実**

## 5 ICT環境の整備

### ICT環境の整備

→Google Chromebook整備を授業改善に！

- ・ICT教育推進プロジェクトを編成
- ・大学・企業との連携推進
- ・通常授業におけるタブレットPCの利活用
- ・「学力向上」をねらいとしたICTの利活用

**【展望】 大学・企業との連携の充実**

**ICTの利活用を学力向上につなげる**

**→シティプロモーションに活用**

御清聴ありがとうございました。